

平成21年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）

「アンケート結果に応じて」

| | | | | |
|--|------------|-------|------|---------------|
| 所属部局 | 人文学部 | | 氏名 | 小谷順子 |
| 講義コード | 2350003010 | | 講義名 | 人権総論 |
| 開講曜日 | 木曜日 | 1・2時限 | 専門科目 | |
| 授業回数 | 14回 | 休講回数 | 1回 | 補講回数 0回 |
| | | | | 受講登録者数 110名程度 |
| 成績評価に際し注意した事項 | | | | |
| <p>明確な基準に基づく公正な評価となるよう、また、期末試験のみでなく平常時の勉強の成果をも反映させた評価となるよう心がけた。具体的には、毎回の授業後に各自が自宅でe-learning方式で受験する小テストの得点の合計と、期末テストの得点とに基づいて、機械的に得点を算出した。</p> | | | | |
| 報告内容 | | | | |
| [1] 総合的な評価について | | | | |
| <p>当該科目については、アンケートの質問項目毎の履修者の満足度(10段階評価)は、すべて8前後以上であったほか、質問項目毎の満足率もすべて80%以上であったことから、当該科目の履修者の総合的な満足度は高いものであったと言える。</p> | | | | |
| [2] 各質問項目について | | | | |
| <p>履修者が重視している項目のうち、「声の聞き取りやすさ」、「主題の明確さ」、「教材の使い方」、「シラバス内容の反映」については、当該授業は履修者の高い満足度を得ている。一方、履修者が重視している項目のなかで、①「授業の難易度」、②「質問・相談に応じる姿勢」という2点については、満足度が比較的低い。①については、質問方式の都合上、難しすぎたのか、それとも易しすぎたのかは定かではないが、次年度からは、「授業支援システム」上で早期にアンケートを実施することによって、学生側の感じている難易度を確認していきたい。また、②については、大教室における講義型の授業であるため、教室で質問・相談に応じることは容易ではないが、常時「Power Campus」上で質問を受け付けていたつもりであったが、学生側に意図が通じていなかったようである。次年度からは、質問ができるということを周知徹底していった。(なお、次年度は、「Power Campus」ではなく、「授業支援システム」を利用する。)</p> | | | | |
| [3] 総合成績について | | | | |
| <p>総合成績の分布は、次のとおり。</p> <p>秀 15名 優 25名 良 14名 可 31名 不可 23名（うち6名は期末試験欠席）</p> | | | | |
| [4] 担当教員からのメッセージ | | | | |
| <p>毎回同じことを書くことになるが、最後に、授業担当者から履修者への希望を記しておきたい。当該科目は大学の専門科目である。したがって、履修者が既に一般的な社会常識に加えて高校の公民分野（現代社会・政治経済）の知識を身に付けているという前提で、専門的な授業を行いたい。そこで、履修者は、学期が始まる前に公民分野の教科書を読み直し、また、常に新聞等を読んで時事的な問題を把握したうえで、授業を受けてほしい。また、毎回の授業の前には教科書をよく読んでおき、授業の後には更に知識を深めるための自主学習をしてほしい。パワーキャンパスの小テストは「自主学習のきっかけ」の場にすぎない。小テストを受けた上で、より積極的に自ら学ぶ姿勢をもってほしい。また、授業中は集中して授業を受けてほしい。そして、疑問・質問があればいつでも声をかけてほしい。</p> | | | | |